2010
vol.14
Jan

黄河の森
KFG

発　　行／特定非営利活動法人
黄河の森緑化ネットワーク
常務理事・事務局長／矢 野 正 行
編集責任者／一 木　　仁

〒650-0011
神戸市中央区下山手通り2丁目12-11
神戸華僑会館内
TEL・FAX:078-392-8328
E-mail:kouganomori@s6.dion.ne.jp
URL.http://www.k3.dion.ne.jp/~kougakfg
IP:05031111874

あふれる笑顔、育てよう緑（2期植樹基地）

ああ あの大河 太古より 流れる誇り
ああ その緑 永久に たやさぬ心
燃えたつ生命 ここに ここに

CONTENTS

P.2　ＧＣＢと初の協働植樹
P.2　シンポ、写真展の詳細決定
P.3　義援金贈った小学校を訪問
P.3　植樹ワーキングツアーに参加して
P.4　私と環境(12)　庭木の健康診断④
P.4　絵本からのエコ・メッセージX
P.5　黄土高原の植物XIII
P.5　2010年度植樹とクリーンキャンペーン日程
P.5　森づくり講習会に参加して
P.6　植樹ワーキングツアーに参加して
P.6　親睦会のお知らせ

黄土高原に緑の輪

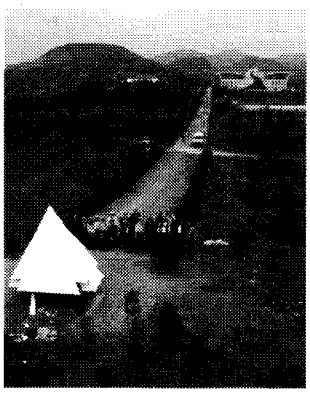
ＧＣＢと初の協働植樹

２年ぶりのワーキングツアーが９月19日から26日まで行われ、中国・蘭州市の２期植樹基地で20日、現地の環境ＮＧＯ「緑駝鈴（ＧＣＢ）」との初の協働植樹を実施しました。10歳の小学生から70代のお年寄りまで、日中の計52人が参加、秋の青空の下、心地よい汗を流しました。

蘭州市のボランティア組織との連携・支援は、三井物産環境基金プロジェクトの主要事業。昨年実施の予定が四川大地震でツアーが中止となり、延期となっていました。

作業前の式典で、蘭州市南北両山環境緑化工程指揮部の王恩瑞副総指揮は「今年は黄河の森緑化ネットワーク（ＫＦＧ）に加え、ＧＣＢの若い人も参加していただいた。蘭州のよりよい環境づくりに若い力を発揮してほしい」とあいさつ。ＫＦＧの石嘉成副代表は「活動を始めて８年、毎年緑化が進み、自然との闘いの努力を感じる。今年は若い人や市民と協働植樹でき、市民の輪がさらに広がることを祈念します」と述べました。ＧＣＢの徐定艶さんは「日本から植林に来ていただき、感謝します。ＧＣＢは今後も環境保全に力を注ぐので、よろしくお願いします」と決意表明しました。

蘭州のNGO「緑駝鈴（GCB）」との初の協働植樹を前に記念撮影



１期植樹基地。手前が中日友好記念碑、右手遠方は緑化展覧館

この日はＫＦＧ18人、ＧＣＢは理工大、師範大の学生12人ら17人、指揮部関係者17人が、約5000平方㍍の急傾斜地に、ベニスナとよく似た榛条500本を植えました。あらかじめ穴を掘っていたため、作業は比較的楽です。日中の老若男女が３、４人一組となって、和やかにポット造林していくと、黄土高原の一角に笑顔と緑が広がりました。最年少の参加者は、父親の指揮部科長・陳雲さんと一緒に作業していた江銘君＝小５＝で「楽しかった。木を植えることができ、良かった」と話していました。

協働植樹に先立って１期植樹基地を視察しました。ＫＦＧが緑化を手掛けた山陵には豊かな緑が成長しており、ツアー参加者たちは感慨深げに見渡していました。

緑化展覧館には新中国建国後、蘭州市民が冬に凍結した黄河の氷を切り出し、周辺の山に背負って登り、植樹をしたエピソードの紹介や、同市の動植物の生態も展示され「緑色文化」の大切さを訴えていました。現在の植樹のコーナーでは、ＫＦＧの写真も展示され、参加者は熱心に見学していました。

緑化テーマにパネル討議

2月13日 シンポの詳細決定

今年度は三井物産環境基金助成事業の３年目最終年度になります。

助成事業の期間は2010年6月30日までですが、会員の皆様への当事業の最終報告会を10年２月に神戸で、５月に中国蘭州市で開きます。皆様の振るってのご来場をお待ちしています。詳細は下記の通りです。

◇写真展

日時　2010年2月11～17日
（11～18時、17日は16時まで）

場所　神戸・元町アートギャラリー

2002年のⅠ期事業から09年のⅡ期事業の間の植樹活動写真及び蘭州市民の撮った好きな木々に関する写真、会員から集めたそれぞれが関心を持っている木々の写真を展示します。

◇シンポジューム

日時　2010年2月13日（土）13時半 ～ 16時半

場所　神戸中華会館７Ｆ（トアロード）

＜第１部・報告会＞（13時半～14時）

黄河の森緑化ネットワーク会員による今までの活動報告。08年に蘭州市で行ったアンケート調査の解析、報告も行います。

＜第２部・音楽会＞（14時10分 ～ 14時40分）

特別出演の濱﨑加代子さんによるソプラノの調べ。濱﨑加代子さんは関西二期会，神戸音楽家協会の会員であり、阪神・淡路大震災のあとでは被災者支援のためチャリティーコンサートも多数手がけています。

＜第３部・パネル討論会＞（14時45分 ～ 16時半）

コーディネーターに芹田健太郎さん（神戸大学名誉教授，兵庫国際交流協会参与）、パネリストには高見邦雄さん（緑の地球ネットワーク事務局長）、北川秀樹さん（龍谷大学法学部教授）をお招きし、会員１人の参加で、「中国の緑化とボランティア活動」をテーマに討論会を行います。

17時ごろから懇親会を開催します。場所は後日連絡します。

蘭州での写真展、シンポジュームは現在調整中です。

被災地交流へ一歩

瀧南市 義援金贈った小学校を訪問

ワーキングツアーの一行が9月23日、一昨年5月に起きた四川大地震の際、ＫＦＧが義援金を贈った甘粛省南部の隴南市武都区三河鎮にある竹林小学校を訪問しました。

隴南市は四川省に隣接しており、地震で大きな被害を出した地域の一つです。同市に近づくにつれ、亀裂の入った山やガケ、青い仮設テント、壊れたままのレンガ造りの民家が目につきました。

武都区中心部から小学校までは約30キロですが、災害復旧と景気対策のインフラ整備を兼ねた道路工事が続き、1時間半かけて午後4時半過ぎにやっと到着。山深い土地とあって日の陰った校門では、児童・職員全員ばかりか、住民多数も集まって「歓迎、歓迎、熱烈歓迎」の大合唱で出迎えてくれました。

同校は2400平方メートルの敷地に2階建て800平方メートルの校舎が建ち、1－6年の児童 172 人を教諭6人が教えています。地震では児童3人がケガ、校舎も一時使用不能となったが、テントやプレハブでしのぎ、3日後には授業を再開したということです。

竹林小児童からの大歓迎を受けるＫＦＧ会員ら

土産のクレヨンなどを手渡す矢野ＫＦＧ事務局長

矢野ＫＦＧ事務局長は、お土産のクレヨンとスケッチブック 200 セット、神戸中華同文学校の児童・生徒が書いた絵画を手渡し「神戸でも10数年前に大きな地震があり、他人事とは思えなかった。絵を描いていただき、日中の学校交流を進めてほしい」と述べました。

これに対し、地元教育委員会で小学校を担当している趙馮社さんや王志文校長は「義援金はまだ届いていないが、校門や壁をきれいにするために使う予定だ。みなさんの心からの義援金を無駄にしないよう、いい人材を育て、期待にこたえたい。今後も上水道やトイレなどの整備が必要で、支援をお願いしたい」と訴えていました。

植樹ワーキングツアーに参加して ①

われ今、大陸に立てり

ＫＦＧ会員　松原 毅幸

私の在所は、「丹波竜の郷」かみくげ。ＫＦＧ会員村上鷹夫さんと同郷でＪＲ福知山線の下滝駅の所在地です。彼が喧伝するＫＦＧ活動の様子や地区の「文化祭」で紹介された現地の写真集などで、おや？…と私のとり止めない好奇心がもたげたのがきっかけだったかと思います。

北京に着いて空港での夕食をとるまでは、台北か香港に着いたのと何ら変わりのない気分でしたが、深夜霧の蘭州空港に着いた時は、思わず“われは今、ついに大陸に立てり！”と、おとな気ない興奮に駆られました。

何と言っても、黄土高原のあの風景は、細切の写真では伝えきれないものを感じました。アフリカやアメリカ西部の大砂漠のそれよりも…自然の惨たらしさを平然と見せ付けているという感じです。

現地の学生ボランティアとの植樹作業で、手に触れたあの土、（この土で何が育つというのだ…）そして植えるというより其処にうめてゆくあの草（異常に根が張る有効品種らしいが、私にとってはまさに草の移植まがい…）作業そのものの達成感の希薄さ…これを営々と、さらに営々と継続していかないと実りを図れない（微少労力の大量出役）（非効率な時間と経費）事業規模の膨大さを考えたとき、たった2・3時間の…だけどそれで充分だった。神戸で、この話をどんなに詳しく聞けたとしてもこの体験を超えることはない“…ああこの体験がＫＦＧのワーキングツアーの目的のひとつか…”と勝手に納得したりしました。

黄河の水に触れたことと、グランドキャニオンばりの炳霊寺石窟をとりまく奇岩山や麦積山石窟を観ることができたのは、このツアーの大きなオマケでした。

ＫＦＧが義捐金を寄付し再建の一部を担ったという震災小学校への表敬訪問については、ツアーメンバーの中でも実際阪神大震災の被災者である方とそうでない者との「意義」の格差は計り知れないものだと感じます。…実際、被災地の再建道路のバス体験は単に“異国情緒”では済まされない厳しいものがあったということです。（…日本の1970代の田舎道を考えればそうでもないか…）

西安、何もかも初めての私が書けば安物の「観光案内パンフ」になりかねません。ここは家族を連れてまたくる処にしたい。唯いつ、西安事件が1936年12月と…私の生まれる満2年前となるのを確認して何故か愕然としたことをお伝えします。私の内の細切の資料には年代の繋がりなぞあまり重要ではなかったようです。

私と環境(12) 庭木の健康診断 ④

―― 庭木の環境 性質 ――

樹木環境研究会議「ミルフィーユの会」
KFG顧問 天 野 孝 之

庭木はその性質として、日照の要求量がそれぞれ異なっています。日の良く当たるところを好み、日陰では生育できない陽樹、逆に日当たりでは余り生育できず、日陰のほうが生育がよい陰樹、どちらでも生育できる樹木などに分けられます。また種子が発芽成育するとき、明るい場所でしか発芽できない樹種や、日陰でも良く発芽する樹種などがあります。したがって庭木を植える場合、植える場所の日照条件を調べ、その環境条件に合った庭木を検討する必要があります。

たいていの庭木は日光のよく当たる場所に植えればよく生育しますが、アオキ、ヤツデ、センリョウ、マンリョウなどは日陰を好む庭木です。これらを直射日光がよく当たるところに植えると葉が黄色くなったり、黄色い斑が美しく出なかったりするだけでなく、庭木の持っている特性まで左右します。

日照条件は植栽後の樹勢維持にきわめて大きな影響を与えます。このため自分の好みによって、どこにでも植えれば良い、ということは慎まなければなりません。陰樹でも、まる一日直射日光があたらないところでも生育しますが、不要な枝葉を剪定し、天空からの散光をうまく利用するようにします。

大きな庭木は、直根を切断されて植えられています。したがって強風をまともに受けると、倒れることがあります。植栽後数年は支柱でもって倒伏を防ぎます。しかし支柱と庭木の幹との固定部分あるいは当てた部材の箇所に害虫や腐朽菌が侵入したり、庭木の巻き込みが起こったりして、庭木の衰弱につながっていきます。また何年も支柱に頼っているような庭木は、根の発達が悪いので庭土の排水、軟らかさなどの土壌調査を行う必要があります。強い風は葉からの水分蒸散を強制的に行います。風当たりの強い場所では気をつけなければなりません。

日当たりに植えられたアオキ。葉が枯れてきました。

日照を好む好まない庭木があるのと同じように、土壌中の水分の多い少ないによっても、庭木の生育は大きく異なってきます。水分の多いところを好むヤナギの仲間や、乾燥地を好むアカマツなど庭木にはいろいろあります。一箇所に両方の庭木を植えるには、一方は土を盛り高植えするとか、何らかの方法を取る必要があります。しかし、その後の管理が大変です。

気温は、季節によってまた日中夜間によっても大きく変化します。また日陰、日当たりによっても変化します。比較的高温を好む庭木と、夏の高温多湿を嫌う庭木があります。

鉢植えのゴムノキやドラセナなどをお持ちの方は、冬の管理が大変でしょう。家の中、太陽光線を求め、あちら、こちらへと重たい鉢を毎日移動さすのは重労働です。それと同じように南方系の庭木を、無理して庭に植え込むと冬の管理が大変です。近くの野山を歩き、自宅の近くにはどのような樹木が生育しているか良く観察して下さい。

絵本からのエコ・メッセージ X ふゆのあさ

KFG会員 畑 中 弘 子
(児童文学者)

この絵本は、雪のつもった朝の静けさを情感豊かに描いています。

初版発行は1997年11月。12年ほど前のあの頃、わたくしの住んでいます神戸の山側では雪がよくふって、それも雪だるまをつくるほどにふる日があったように思います。ふりかえって、わたくしが小さかった頃は、何度となく雪の朝にわくわく、どきどき。この物語の主人公のように急いで外にとびだしたものです。さて近年の冬の朝はどうでしょうね……。

しずちゃんは朝、目をさまして、あたりのしずけさにはっとします。
もしかして。ぜったい、そう。おねがい。ほらっ、やっぱり。ゆきだよ！

ポッポッ、ポッポとゆきがふります。しずちゃんは犬のシロと外にとびだしました。げんきなこえまでもゆきにすいこまれて、とってもしずかです。

といった内容の絵本です。

冬の豪雪の大変さもさることながら、やはり冬にはそれなりの寒さや雪がもどってきてほしい。そんな思いをおこさせてくれる、絵本「ふゆのあさ」です。

村上 康成 / 絵と文
ひかりのくに株式会社

黄土高原の植物XIII

蘭州の「市の木」エンジュ（槐）にクレームがあった そしてついでに槐と楷

ＫＦＧ顧問　徳 岡 正 三（元高知大学農学部教授）

前回は学名に絡めてエンジュをとり上げた。今回は三井物産環境基金の助成を得て蘭州市で実施したアンケート調査に絡めてとり上げる。

エンジュは街路樹や庭園の木としてよく利用され、蘭州市のシンボルの木である。乾燥した中国西北の都市にマッチした木と思われる。ところがアンケートの回答の中に１つだけであるが、このエンジュにクレームをつけたのがあった。いわく「エンジュが街路樹によく使われているが、アブラムシ（蚜虫）が多くつき、この虫の分泌物が地面を汚し、しかもこの木の濃色の期間が短い」とあった。

蘭州飛天大酒店横の南北の通り、両側はエンジュの街路樹

さっそく調べてみた。エンジュの病気には腐爛病（フザリウムなど２，３の病原菌が関係する）、害虫には蚜虫、槐尺蠖（エンジュシャクトリムシ）、紅蜘蛛（ニセナミハダニ）が記載されている。日本でも数種のアブラムシが特異的にエンジュを含むマメ科の植物に取りつくようだが、蚜虫がどんなアブラムシなのか残念ながら詳しいことは分からない。いずれにしてもエンジュも病菌や害虫に襲われながら生きている。

植物ならこれは普通のことで、どんな植物も大なり小なり病気にかかったり虫に襲われたりしている。遺伝子組み換えダイズが問題とされるのは、虫もつかないダイズをはたして人間が食べても大丈夫だろうか、ということである。虫と同じく人間も植物を食べて生きているから。

要は虫に食べられる程度が「有害性発生の限界水準」を超えているかどうかである。「これ以上の被害はたまらん！」というのが限界水準である。この水準以内の被害ならほっておく。水準をどこにおくかの判断はむずかしいが、蘭州で上のクレームを多くの人が認めるようなら、何らかの手を打つことが必要になる。噴霧器で殺虫剤を撒いたりするかもしれない。できることならそうならないよう、水準以内におさまるような技術や管理が望ましい。例えば品種改良や天敵による生物防除法などの開発である。このクレームから、世の中これでよいということはなく、常に問題に気づき、その解決といっそうの向上が求められるのだと受けとめたい。なお「濃色の期間が短い」のもアブラムシによる吸汁の影響かもしれない。

ところで、槐（エンジュ）はカイと読めることから、槐がカイノキと呼ばれるときがある。しかしカイノキは楷木（普通名は黄連木）をさし、エンジュとはまったくの別ものである。エンジュはマメ科、カイノキはあのピスタチオと同じ仲間でウルシ科に属する。蛇足ながらまた名前のややこしさにふれた次第である。

森づくりの意義学ぶ

ＫＦＧ理事　安本 昭久

国交省六甲砂防事務所主催の「森づくり講習会」に、石副会長、矢野事務局長と私の３人で参加しました。六甲山系グリーンベルト整備事業の一環で、事業の意義と森づくりの基本的な活動方針についての講習があり、その概要が理解できました。

この事業はＮＰＯや市民団体、学校などの団体が参画し、六甲山系の整備、維持管理及び啓発・教育に寄与することを目的にしています。

ＫＦＧでは、主目的の中国・蘭州だけでなく、国内における緑化事業推進のために参加。平成 17 年３月に神戸・住吉山手地区で植樹を始めて５年になります。この間、中国からの訪日団との記念植樹も実施、昨年は同事務所から「森の世話人」の認定も受けました。

講習内容は、森の世話人同士の交流、情報交換、森づくりの基本スキル取得、渦が森地区の現地視察などでした。研修は非常に充実しており、今後の植樹活動の参考にしたいと思います。

ＫＦＧが参加した時点ではわずかの団体しか活動していませんでしたが、この２、３年で 23 団体にまで増加し、他に 10 団体が参加準備中だそうです。一般の企業もかなり参加しており、植樹についての関心も高いようです。

今回の講習会の資料は事務局で保管しています。興味のある方はお問い合わせください。

六甲山クリーン＆グリーン活動

六甲山植樹 －住吉山手６期植樹－

- ●2010年３月６日（土）　６期植樹
  - ３月13日（土）　予備日
  - ６月５日（土）　下草刈り
  - ９月４日（土）　下草刈り
- ●集　合　ＪＲ住吉駅南側　９時
- ●服　装　長袖、帽子
- ●持参品　弁当、水筒、軍手、雨具、タオル

六甲山クリーンアップ活動
－身近にできることから始めよう－

- ●日　時　2010年４月10日（土）
  - 10月９日（土）
- ●集　合　阪急岡本駅　９時
- ●歩　行　約３時間
- ●コース　春はゴミ、空き缶集めをした後、住吉山手の記念植樹地で花見を兼ねて昼食
- ●持参品　弁当・水筒・雨具・タオル・ビニール袋・軍手
- ●リーダー　矢野 正行
- ●サブリーダー　安本 昭久

参加できる方は
事務局までお知らせ下さい

植樹ワーキングツアーに参加して ②

「愚公移山」の精神で

ＫＦＧ会員　平野　勲

中日友好記念植樹ワーキングツアーに初参加する機会をもちました。６年ばかり上海、広州で仕事をしており、去年９月に引退、日本に帰ってきました。引退後も何か中国にかかわることができればと思い、ＫＦＧに参加、今回、旅行へも同行させてもらいました。ということで、丁度１年ぶりの中国だったわけです。

もちろん、今回の旅行は過去のものと違います。黄土高原を訪れるのが初めての体験で、緑化事業にも何の経験もありません。

いろいろ疑問をもっておりました。まず、自分の先入観と違ったところは、黄土高原は、黄色いあるいは白い土ばかりが延々と続く地方ではなく、一定の部分は田畑とされ、山々にも緑がかなり見られたということです。それは冬季には枯れてしまい、荒漠たる風景に戻ってしまうのでしょうか。

蘭州郊外の緑化も、水管を山まで通し、水利を行っているなどかなり成功している部分があり、中国での緑化事業も、日本で報道されているほど進捗していないわけではないと安心しました。植樹後のメンテナンス、植林の事業としての経済性など問題は山積しているのではないか、また、現地の人々、政府の人たちが、われわれ外国人がやってきて植林をするのをどう受け止めているのか、など少々疑問を抱いておりましたが、かなりうまくいっているのではないかと推測しました。

１度や２度の旅行でその内実まで深く知ることはできません。また、何しろ中国は広い。緑化事業もあと何年かかるか、推し量ることもできませんが、何事も「愚公山を移す」の精神で進めなければなりません。個人的にも興味のある問題です。

植樹後の大地震の被災小学校への訪問も、貴重な体験でした。道路事情が悪く（それでも、こんな山奥まで道路が舗装されているという、最近の中国の発展にはおどろきつつ）苦行でしたが、中国での大都会での生活と違った子供たちの素朴な生活ぶりに感激しました。とくに、早朝、まだ夜も明けぬうちに懐中電灯を頼りに山道を長時間歩いて登校する小さな子供の姿、それは貧しくもありますが、けなげなものでした。それをこのように情緒的にとらえるか、あるいは中国でのいわゆる「三農問題―農村、農業、農民」として捕らえるか見解は別れるでしょう。

中国の環境問題（緑化を含めて）、農業問題（貧富の大きな格差を含めて）のほんの一部でも、実際の目で見ることができたのは貴重な体験です。日本でメディアや書物を通してみるのとは違った意味があります。私にとっても、引退後の老後の仕事（単なる暇つぶしの道楽に過ぎませんが）としての中国研究のワンステップになりました。

若者との交流に意義

ＫＦＧ会員　小川 良太

今年度のワーキングツアーに初めて参加しました。会員になって５年、これまでは名ばかりの会員でしたが、退職をしたこともあってツアーに参加することにしました。出発前には植林事業はもちろんのこと長年のマンション暮らしで庭木いじり一つの経験のもない者が、どれほどのお役に立つのか一抹の不安がありました。しかし、今年からは植える樹種が「檸条」という乾燥地帯特有の低木の苗に変わっていたのと、事前に地元の職員の方々により植え付け場所の設定・苗の準備など入念な準備がなされていたため、作業は移植ゴテで小さな穴を掘るだけで済みました。そのため予定された作業は小一時間もすると、拍子抜けするほどあっけなく終了しました。

私の緑化事業の知識はマスコミ等の報道による程度です。中国における緑化事業については、各地で数多くの事業が展開され、多くの日本人が携わっていることはよく見聞きします。それらの実際については全く知識がありませんが、この種の事業について地元の人達はどのように受け止めているのか、現地に立って気になったところです。これまでは行政府の人達との共同作業でしたが、今回からは蘭州市内のボランティアグループ（今回の多くは蘭州市内の大学生）の参加がありました。次年度以降も連携して事業をする予定とのことでしたので、今後は若い人達の意見を聞く機会もできるのではないでしょうか。

旅行の日程が国慶節直前の不穏なニュースが伝えられ時期ということもあり、天水市街の入り口では銃を構えた公安（警官）がバスに乗り込んできて検問をするといった少し緊張した場面もありました。しかし旅行全体は楽しく・貴重な体験をした８日間でした。

親睦会のご案内

2010年度は会員の親睦を図るため、「竹の子刈り」と「しし鍋会」を企画しました。竹の子刈りは会員の池田さん、しし鍋会は同じく会員の村上さんのお世話です。

＜竹の子刈り＞

場所　京都府相楽郡和束町
日時　2010年４月24日（土）
　　10時現地集合

持参品は昼食，飲み水，軍手，タオル，雨具（天候による）。農作業のできる服装でお願いします。現地集合、現地解散です。

＜しし鍋会＞

場所　兵庫県丹波市山南町
日時　2010年11月末の土曜日で
　　1泊２食の予定
費用　約7000円
　　（アルコール，交通費別）

民宿に泊まり、夕食に「しし鍋」を賞味します。